

2012年9月29日、さまざまな分野の専門家が集い、日本臨床倫理学会の発起人会が開催された。集まった専門家は、急性期および慢性期病院・在宅医療ケア・緩和ケア・高齢者終末期ケア・小児科医療・認知症ケア・遺伝子疾患・精神医療・臓器移植・生殖補助医療などに関わる医療従事者、さらには法律・社会政策・宗教・福祉・マスコミ関係者・患者団体関係者など多岐にわたる。発起人会では、日々経験している日常臨床における苦悩とジレンマ、それぞれに胸に秘めた熱い思い、そして日本臨床倫理学会に対する期待等が語られた。

医療ケアに関わる者は、患者さんやご家族、そしてそれらの人々の置かれた状況や生活などすべてを考慮して、日々さまざまな臨床上の決断をしている。こうした実践現場に則した倫理を提案し、その成果をまた実践現場に反映し、よりよい医療者―患者関係をめざそうと考えている。そうした実践現場の多くの熱意が、必然的に、そして自然に、本学会設立の動きとなった。

臨床の実践からかけ離れてしまうことがないように、病氣と向き合っている患者さんやご家族、そして、実践に関わる医療従事者およびそれらに関心をもっている多職種の者全員で、実践者を支える倫理をつくっていきたくと考えている。

私自身も日々、看護・介護に従事する人々とともに在宅医療に関わり、患者さ

んの最期に寄り添い、多くのことを患者さんやそのご家族から学んでいる。そして、これらの人々とともに、患者さんの人生に共感できることに満足と誇りを感じている。このような実践に基づき、声をあげ、そして行動を起こすことはたいへん重要なことではないだろうか。

日常臨床の実践は、医療や介護の技術的要素だけで成り立っているのではない。一人の患者さんに対し、診断・治療・予後などと同様、倫理的に考慮することも、

## 日本臨床倫理学会設立にあたって

日本臨床倫理学会理事長  
新田國夫

欠かすことのできないひとつの大切な要素であると考えている。

臨床倫理とは、実際のケースに、外から新しい事実や価値観を持ち込んだり、聞き慣れない原則・原理を押しつけたりするものではない。それぞれのケースに応じた医学的事実と倫理的価値から導き出されるものだと考えている。われわれ医療従事者は、臨床倫理が医療の本質的な一側面であることを認識することによって、共感に満ちたよりよい臨床的判

断をすることができると確信している。今後の日本の医療は「臨床倫理」という考え方がなければ、決して正しい方向には向かわないだろう。

そして、臨床における判断が、直観や感情からではなく、医学的にも倫理的にも、さらには法的・社会的・文化的にもバランスのとれた判断となるように、異なった分野のみならずの意見に真摯に耳を傾け、本学会では対話・教育の機会を多くもちたいと考えている。

具体的には、研究・論文発表だけでなく、日常臨床に潜む倫理的問題に適切に対処するための事例検討。倫理コンサルテーションの実践。施設内倫理委員会において、より適切なアドバイスをこなうための講習の実施。人材育成・終末期医療ケア・臨床研究・DNA R (do not attempt resuscitation) 指示などをはじめとする諸分野における倫理問題提起とガイドラインやプロトコルの試案提示。社会的に論議を引き起こしている倫理的諸問題に対して、学会としての適切なレスポンスといった活動を予定している。

そして、より多くの分野の会員のみなさまに、できるかぎり直接参加していただくことが、実践現場の意見を反映させることにつながると考え、分科会のシステムを設けた。当面は①急性期医療、②慢性期医療・高齢者医療、③在宅医療、④終末期医療・緩和ケア、⑤精神医療・認知症、⑥小児医療、⑦生殖医療、⑧先

端医療（移植・再生医療、遺伝子疾患など）、⑨倫理（時事問題）クリエイティブ・ポンス、⑩倫理教育、という内容の分科会を予定している。できるだけ多くの分野の方に参加していただき、ご意見をいただければ幸いである。

医療ケアの実践現場から生じる倫理的問題に適切に対処することを学ぶことで、病氣と向き合っている患者さんやご家族、そして実践に関わる医療従事者を支えられるような学会活動を行なっていきたいと考えている。

本会の設立趣旨にご理解・ご賛同いただき、臨床実践に関わる諸問題を、医学的視点だけでなく多角的に見つめ直すために、より多くの臨床実践に関わるみなさま、およびそれらに関心を寄せている多職種のみなさま、ぜひ本学会へご参加ください。

なお、第1回年次大会を、3月10日に日本教育会館（東京都千代田区）で、「日常臨床の実践に根ざした倫理」というテーマのもと開催する予定である（詳細はホームページを参照）。小誌の読者である訪問看護師および看護職のみならずは、在宅医療・ケアの実践において、高齢者医療・ケア、認知症医療・ケア、終末期医療・緩和ケアなど、高度に倫理的な諸問題に日々直面しているものと思われまます。大勢のみなさまのご参加を、心よりお待ちしております。